

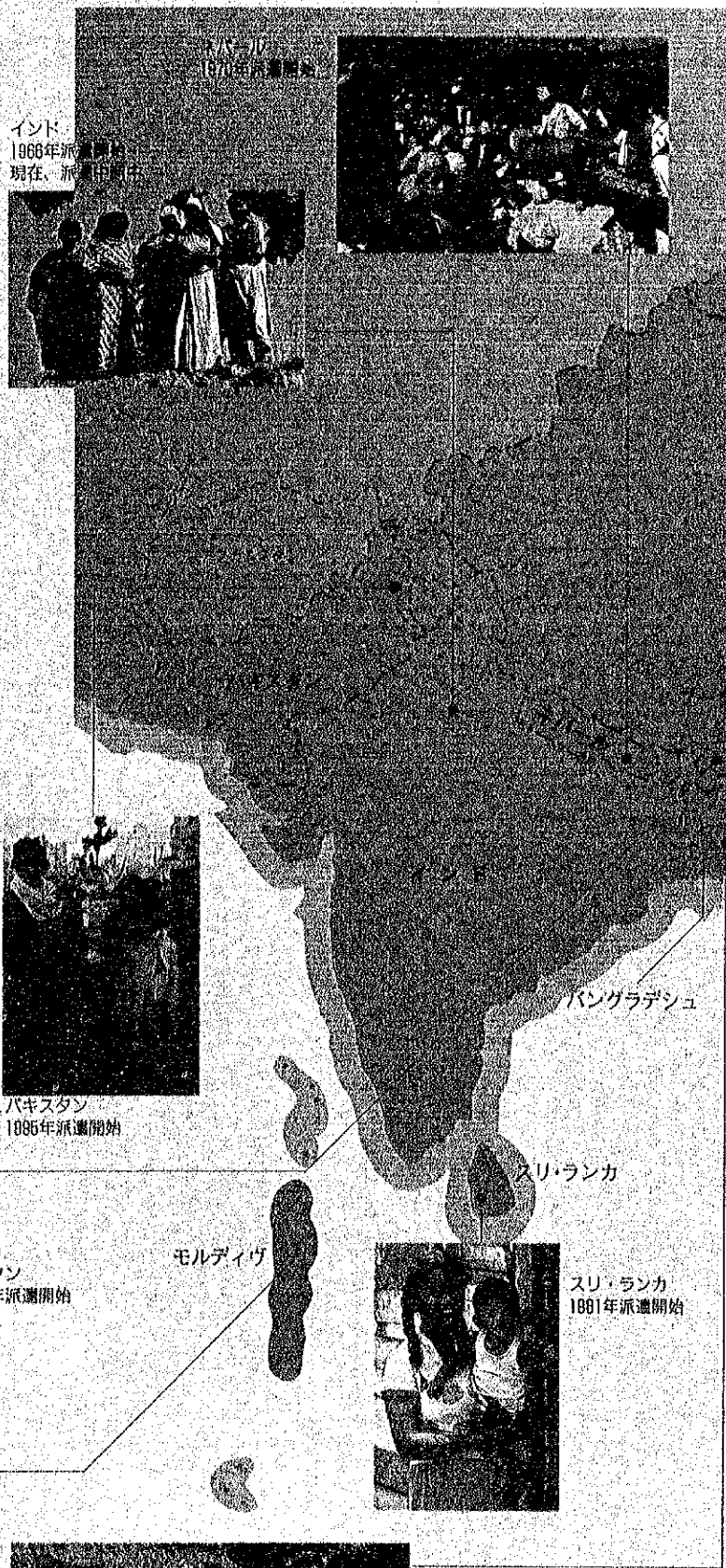
アジア

1966年、6人の隊員がフォースの地を踏んだ。ここは黄色海外協力隊の発祥地にも、歴史の幕が開いた。

アジアは広く、しかも都市と地方の格差は大きい。そのため多くの隊員がそれぞれの分野で、様々な協力活動を展開している。隊員が個別に関わる地域もあれば、新たな方法で目的に向かう場合もある。協力活動に変化が現われたのだ。それは各隊員の個性・分野を活かしながら連携されたグループによる、より高い効果を狙ったプロジェクトとなって進められている。カンボディアではASEAN諸国も加わって、いわゆる五角協力で同国の復興に取り組んでおり、他の国々においても人々の生計向上を目指して、隊員たちが連絡を取り合い、協力の輪を広げている。プロセスが変化してもここ協力隊出発の地で、隊員たちの熱い思いはいまもかわらない。



モルディヴ
1992年派遣開始



インド
1966年派遣開始
現在、派遣中



バングラ
1973年派遣開始



パキスタン
1985年派遣開始

ブータン
1988年派遣開始

モルディヴ



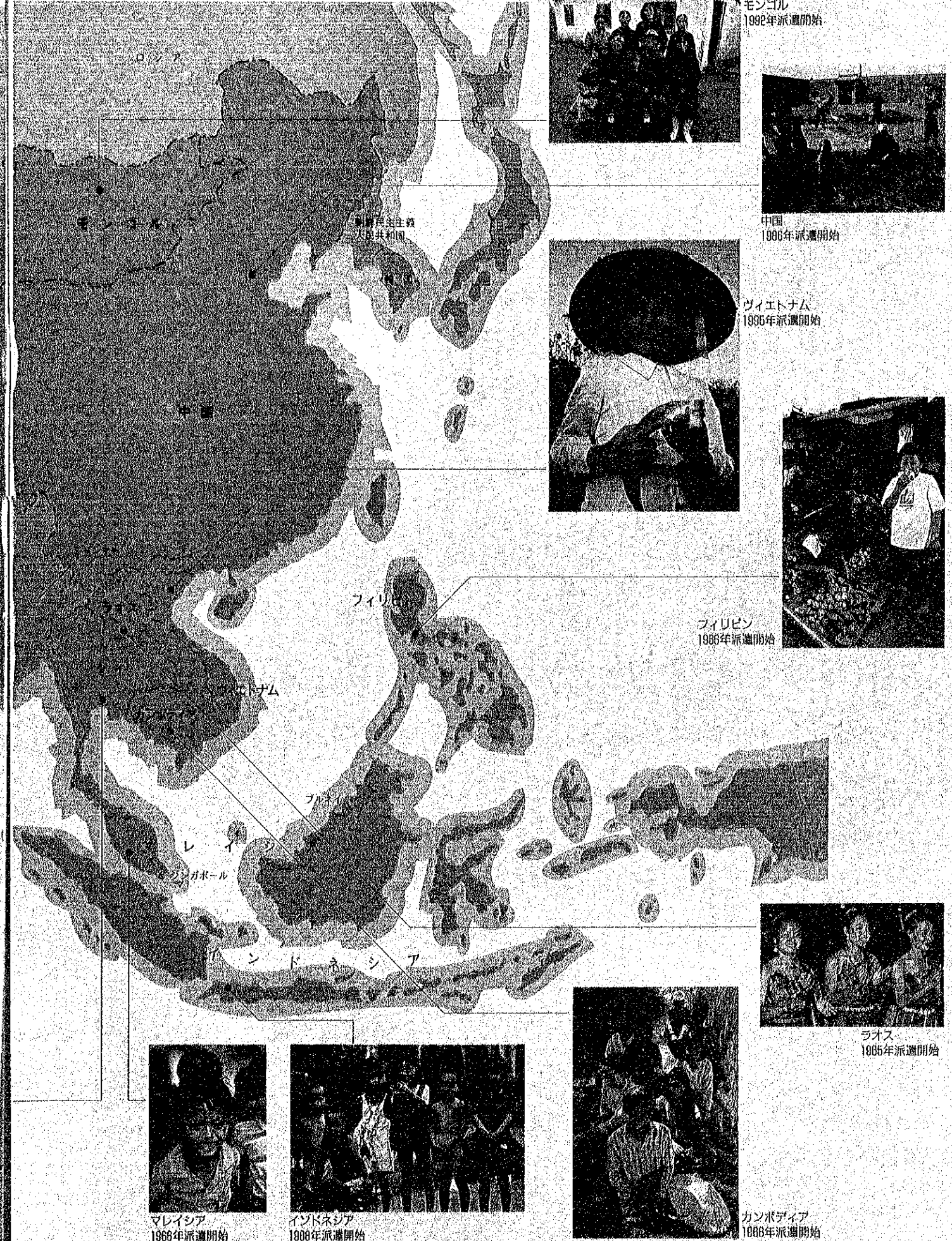
スリ・ランカ
1991年派遣開始



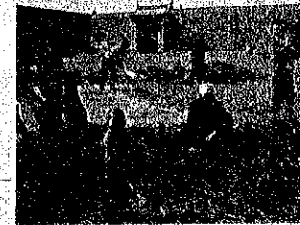
バングラデシュ
1973年派遣開始



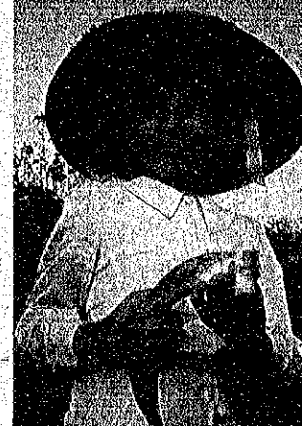
タイ
1991年派遣開始



モンゴル
1992年派遣開始



中国
1990年派遣開始



ヴェトナム
1996年派遣開始



フィリピン
1986年派遣開始



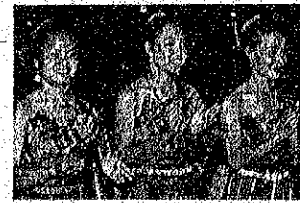
マレーシア
1966年派遣開始



インドネシア
1988年派遣開始



カンボディア
1988年派遣開始



ラオス
1995年派遣開始

カンボディア

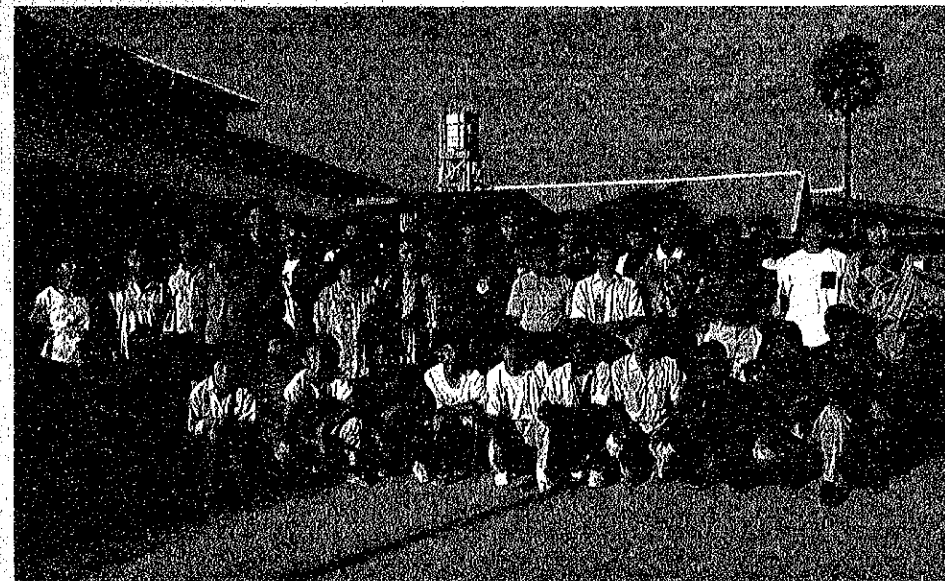
日本、ASEAN諸国、そしてカンボディア 共同事業で取り組む復興の三角協力

帰還難民、国内流民、そして除隊兵士の再定住促進と安定した生計の確立こそが、現在のカンボディアにとってもっとも重要な課題である。

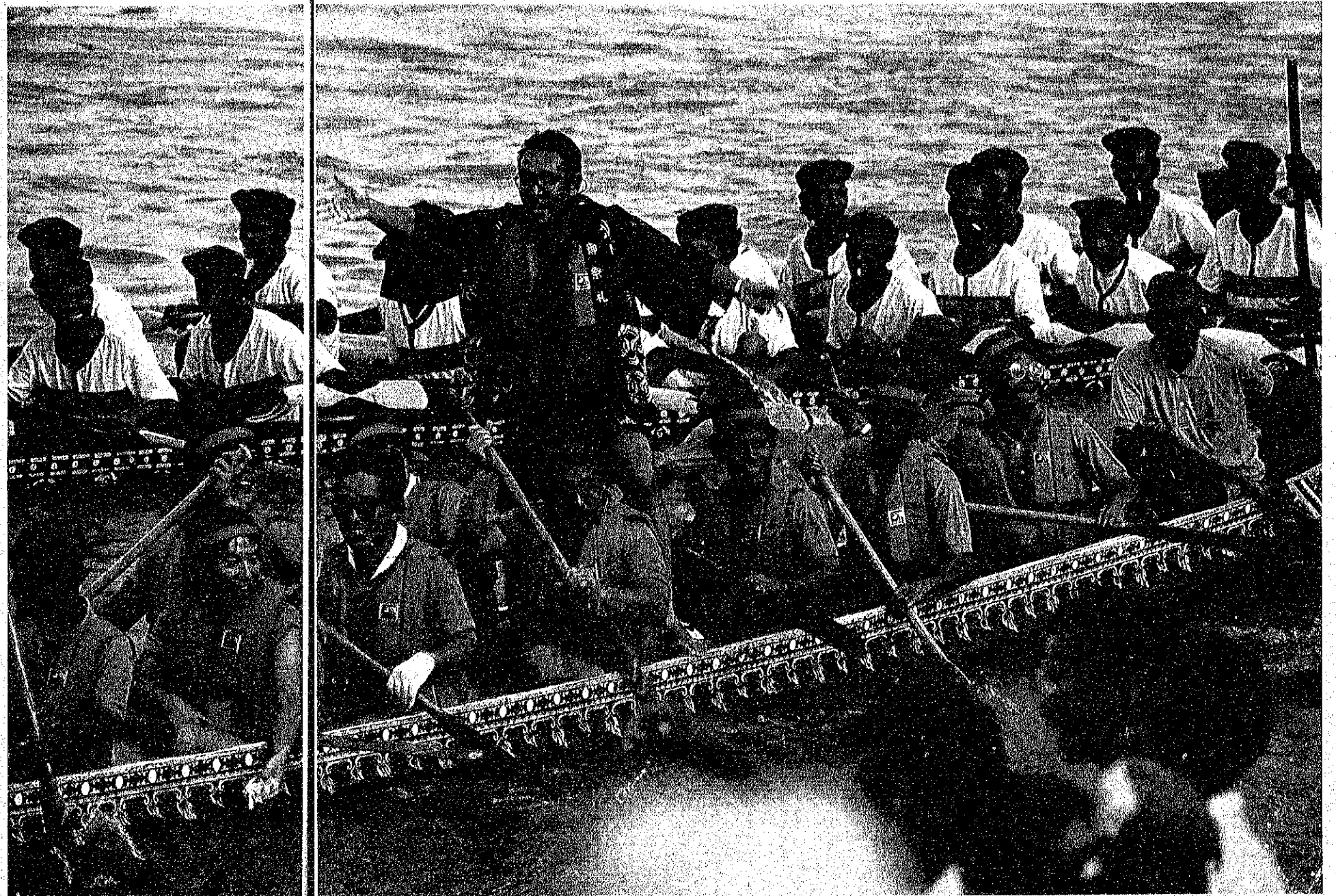
日本の資金と技術、ASEAN諸国の経験と知識を組み合わせ、カンボディアの復興のために協力する「カンボディア難民再定住・農村開発計画」、通称“三角協力”構想が表明されたのは1992年のことだった。

この共同プロジェクトの目的は、日本、ASEAN諸国とカンボディアの技術者が、農業を中心に生計向上、教育、保健衛生などの分野ごとにチームを編成し、農村の基盤整備、地域開発をおこないながら再定住を促進することにある。

プロジェクトのスタートに先立つ調査、活動計画の作成後、農業開発、生計向上、教育、公衆衛生の分野で隊員たちが協力活動を展開している。



三角協力のスタッフたちが集まった。日本、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ5カ国のスタッフたち



長かった戦火も止み、平和な時代に戻った。水祭りも復活した。水祭りは仏教国で共通に見られる雨季あけを祝う祭りである。その中の一番大きなイベントが、3日間おこなわれる独木舟（まるきぶね）競争。全国から予選を勝ち抜いたチームが優勝を競う。各地から集まったたくさんの舟の中に、競技に不慣れな隊員が黄色いライフジャケットで身を包み、日本人会やカンボディアの人々とチームを組んで参加した舟もあった



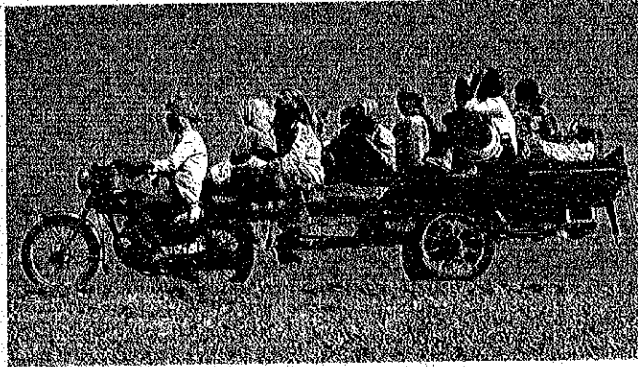
技術科教師の原口明久隊員は学校建設・修理のプログラムに参加。学校の先生、生徒ら地元の人々の手で自ら学ぶ学校の校舎造りが進んでいる。



農業機械の修理、管理方法の指導をしている自動車整備の田中修隊員。この日はカウンターパートの乗ったバイクが川に落ちてしまった。川の中の右端が田中隊員



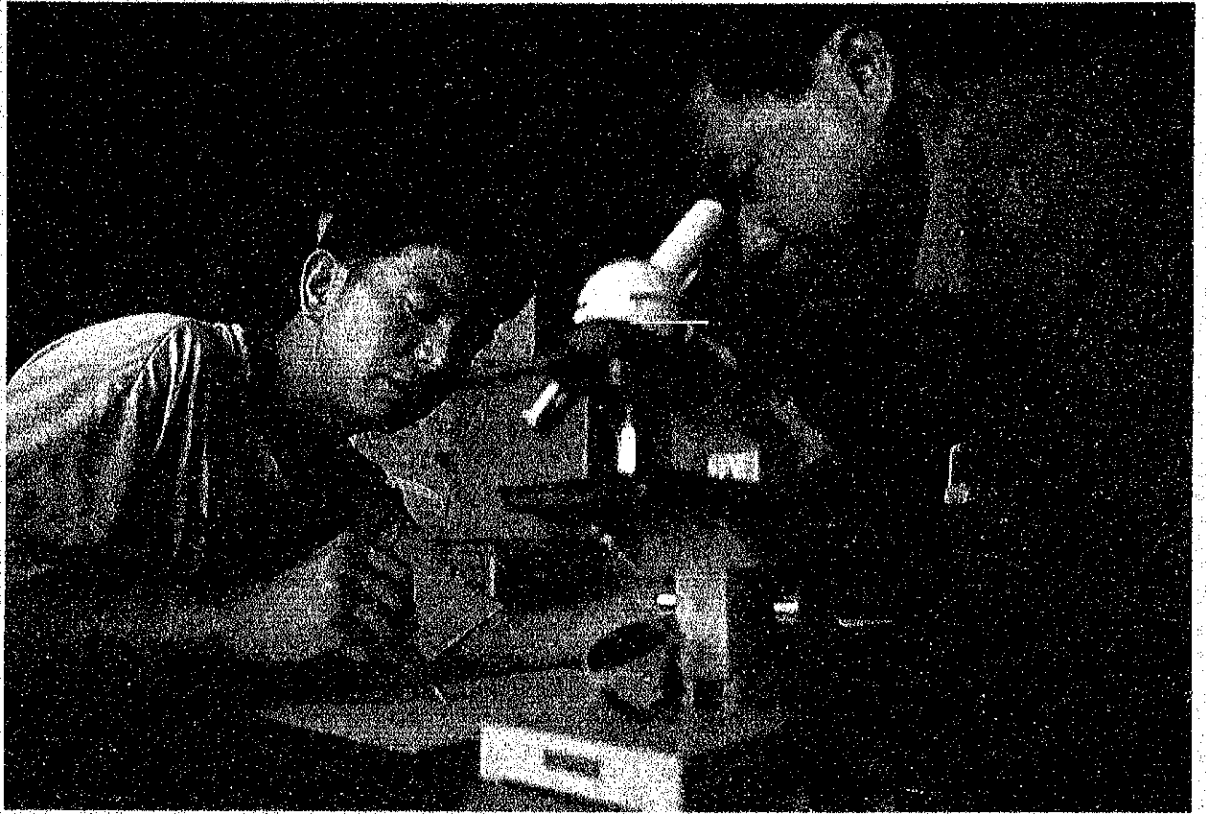
稲作に必要な水を汲みあげた後の小魚
捕り。魚は行商で売られる



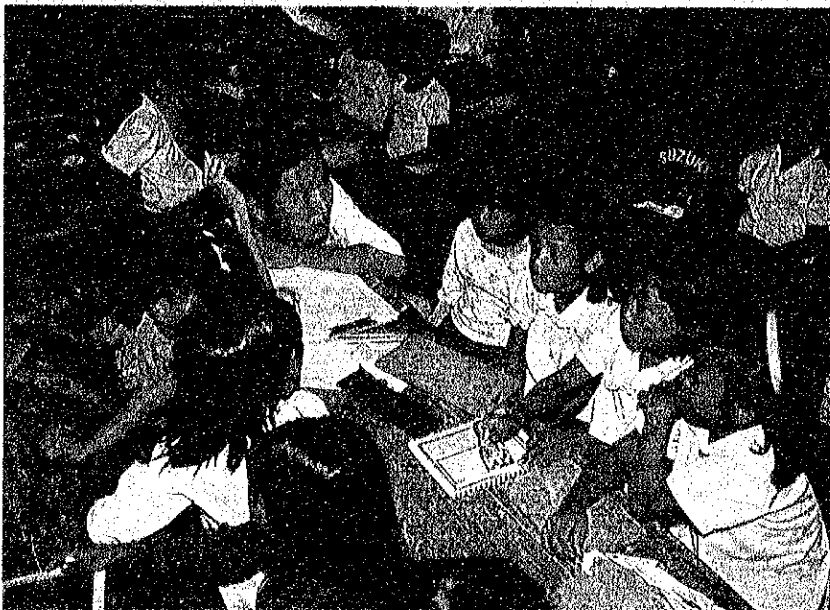
カンボディア独特のルモイ。オートバ
イに荷台をつけて人を運ぶ。民の知恵
で生まれた便利な乗物だ



ポンプによる灌漑を指導する稲作の
小田島成良隊員。この日は対象地域
の農家がポンプを借りに来た。彼ら
の水田まで出向いて使い方を教える

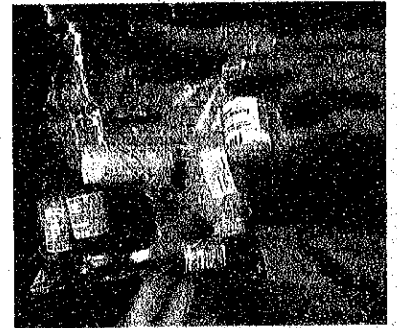
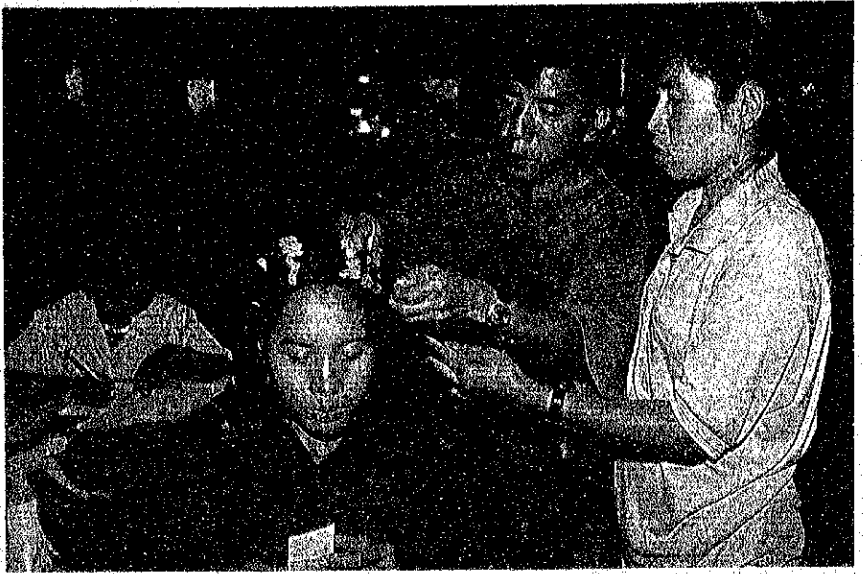


(上) 獣医師の木下秀俊隊員(写真左)が炭疽病を調べている。この病気は牛から人間に伝染し、カンボディアでは毎年死者まで出ている。(右)牛が炭疽病に感染していないか血液を採取する隊員



幼稚園教諭の野辺節隊員と小学校の生徒たち。今日は識字率をアップさせるため、小学校で調査をおこなった。また、幼稚園の先生を集めたクラスでカリキュラム作り、音楽、手工芸、ゲームも教えている

職業訓練所で美容師の指導をする伊良波
眞正隊員。同じ東洋人の黒い髪の特徴を
知りつくしたきめ細かい技術指導によ
り、3カ月間ですでに80名の卒業生を送
り出している



予防接種をおこなう公衆衛生の上野恭子隊員。
このワクチン注射で子供たちの死亡率は大幅に
減少するという。(上) ワクチンは冷蔵保存し
ないと薬効がなくなってしまう。ここ熱帯で冷
蔵することは大変なことである